

「里山」研究グループ第1回巡検

森林公園「宮城県県民の森」に里山の課題を探る

日時：2015年9月13日(日)9:30~15:30

観察地：宮城県県民の森

案内者：三浦 修

参加者：12名(案内者を含む)

以下に、当日の巡検の様子を写真で報告する。

○観察地と巡検の概要

観察地は、富谷丘陵南東部を占める「県民の森緑地環境保全地域」(1973年指定)の南半に、1969年に開設された森林公園「宮城県県民の森」内に位置する(第1図)。公園域の北部を含む一帯860haほどでは、1983年4月27日の林野火災により、スギ林、ヒノキ林、アカマツ林などの針葉樹林と一部の落葉樹林が焼失した。また3年後の1986年8月5日、台風10号から変わった温帯低気圧による総雨量400mm、最大時間雨量43mmの豪雨で、火災跡地を中心とした地域に多数の斜面崩壊が発生した。さらに巡検実施直前の2015年9月10日には108mm、翌11日には163mm(最大時間雨量50mm)の雨量が記録された。



第1図 観察地。A~F：観察地点。等高線間隔10m。
灰色域は1983年の火災区である。

本巡検では、以下のテーマについて観察と討論を行った。

- ①都市近郊森林公園としての植生管理；入園者のアメニティと植物自然との調和
- ②丘陵地の植物種の多様性、とくにβ多様度
- ③1983年林野火災跡地の植生景観；被災地と非被災地の32年後の落葉広葉樹林
- ④丘陵地の微地形と斜面崩壊
- ⑤公園内のナラ枯れの現況
- ⑥景観生態学の景観要素としてのモミパッチとその遷移



写真1 パイピング地点の観察(A付近)。

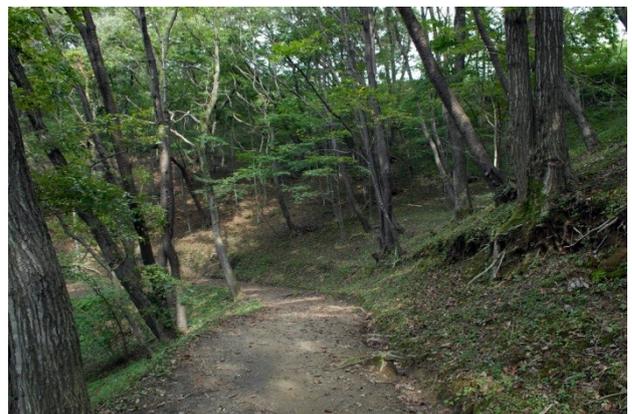


写真2 コナラ林内の観察路。アメニティや安全に配慮して、低木層と草本層が刈り払われている(A~B間)。



写真3 2015年9月10日豪雨で発生したと思われる下部谷壁斜面における崩壊（A～B間）。



写真4 2015年9月10日に発生した崩壊による谷底の堆積物（A～B間）。



写真5 1983年4月27日の林野火災で全層が焼失したコナラ林（上段, 1983年撮影）と32年後の林相（下段）. 下段写真はC～D間で撮影.



写真6 県民の森中央記念館付近（第1図の範囲外）のナラ枯れ木（中央部やや右側の褐色の樹木）。



写真7 フラス（木屑）の溜まったナラ枯れ木の根元付近.



写真8 公園南東部菅沢ため池付近（第1図の範囲外）の
コナラ林（マトリックス）中にみられるモミ小林
分（パッチ）．入会林や私有林等の境界杭として
伐り残されたと考えられる．



写真9 案内者の説明を聴く参加者．